

令和7年度学校経営方針

1. 有明中学校校区学校目標を受けて

有明中学校校区学校目標：ふるさとを愛し、未来の創り手となる児童生徒の育成

ふるさとを愛し、未来の創り手となる児童生徒の育成のとらえ方
有明中学校校区学校教育目標の具体的な児童像を次のような子どもと考える。

- 自分を家族を、そして、ふるさとを大好きだと言える子ども；核となるもの
- 自分をたいせつにするとともに、他者をたいせつにする子ども；協調性
- 自分の夢を持ち、夢を実現していく子ども；考動力・やり抜く力

上記の子どもたちは、なりたい自分を描き、自尊感情を持って自己実現を果たしていく人に育つ。そして、誰一人取り残さない持続可能な社会を創る人に成長する。

その『人』が、一人、二人、三人と増えていけば、人権尊重社会と平和な世界をつくることができる。

私は、ふるさとを愛し、未来の創り手となる児童生徒を育成する教育で、差別と貧困の負の連鎖を断ち切り、誰もが安心して幸福に生きることのできる未来社会を横島小学校の子どもたちと先生方で創っていきたいと強く願っています。

2. 学校教育目標を実現するために、チーム横島小の私たち教職員は、どんな具体的な実践に取り組むのか。

合言葉は、

笑顔の登校 感謝の下校

です。

そして、

自分の命は、自分で守る。人の命は、みんなで守る。

です。

(1) 課題解決のために組織で取り組む

組織：3部会制を敷き、リーダー会議・プロジェクト会議を中心に、職員間のコミュニケーションを図り、共通理解・共通実践を行い、ボトムアップ型の経営を構築する。

(2) 課題解決のために取り組む共通の学習指導・生活指導

- 自分を家族を、そして、ふるさとを大好きだと言える子どもを育てるために

1時限45分完結授業 ～ 家族を知る、ふるさとを知る ～

確かな学力の育成

学校の取組は、まず授業です。1時間、1時間の授業を常に「聴いて 考えて つなげる」授業となるように、子どもたちの実態を的確に把握し、全員が参加する授業づく

りに取り組む。目的をもって、一人学び、小グループ学び、全体学びの活用や、校内外の「ひと・もの・こと」の活用を通して、主体的、対話的で深い学びの授業実践を行う。子どもの発言・考えをつないでいくこと。他の子どもの考えを聴き、自分の考えを持ち深めさせること。学びのスタンダードを一人ひとりに定着させる。そして、徹底指導と能動型学習のスパイラルで各教科の基礎的、基本的内容を確実に身につけ、積み重ねていくことで、確かな学力を育成していく。

○ 自分をたいせつにするとともに、他者をたいせつにする子どもを育てるために

徹底したなかまづくりと生活綴り方

自尊感情の育成

すべての子どもが、かげがえのない人であり、「よさ」・「宝」をもって生きている。しまい込んでいる。その子どもの「よさ」・「宝」を子どもが、学校や家庭、地域のくらしの中で見せる具体的な言動から見つけ、その子どもに対する教育的愛情を深める。

子どもの生活綴り

「せんせい、あのね。」「せんせい、そしてね。」の「つぶやき」を聞き取り、家庭訪問で、その子の今までの育ちや家庭環境をつかんだり、日記や作文に書き込んだもの等から、子どもの心情や生活状態を把握したりすることで、一人ひとりの子どもを深く知る。そこから発する私たちの言動が、「先生は、私のことを気にかけてくれている」「先生は、私のことを知ってくれている」という感情を子どもに持たせ、「この先生は、私のことを、一人ひとりのことをだいじにしてくれている」という信頼と安心感を集積させていく。

その信頼や安心感が、他者を認める力を育み、自己肯定感・自己有用感を持つことへとつながっていく。その積み重ねが、自尊感情の育成となる。そして、自分をたいせつにするとともに、他者をたいせつにする子どもが育っていく。

そして、その一人ひとりの子どもたちをつなぐなかまづくりを積み重ねて、学級集団づくり、学校集団づくりへと発展させて子どもたちをつなげていく。

○ 自分の夢を持ち、夢を実現していく子ども

暮らしと労働を学びキャリアビジョンを持つ

キャリア教育

確かな学力と自尊感情をもった子どもは、将来の自分の姿を脳裏にうかべることができる。そこで、そのビジョンに、中学校や高校、大学という学びのステージの具体像や様々な仕事・労働を、視覚的・感覚的・体験的に伝え、学ばせることで、一人ひとりの子どもたちが、キャリアビジョンを持つ。そして、自分の夢を持ち、夢を実現していくために、自主的・能動的に学びを進め、深めていく。

そして、学びを深めていく子どもたちは、誰もが安心して幸福に生きることのできる持続可能な未来社会を創る人へと育っていく。